

前守志村九郎を討 鮭延越前守等を召集の評定
ありき先義光公定より度景勝の所存を察し入
に秀頼公の幼少故に家康とて七し年を對る我と
いふもせん為め秀頼公を奪せ近玉の諸將を併し
と覺えし 叔父も亦怒り我數年家康とて
即厚恩を請ふるや山崎も之を今更に京勝に一
味走らる中し思ひもむいぬやうの所存をお氣の
とる上は使老を討殺す不日に金津へ移向す
とあるやいふと 佐々木 鮭延越前守進と云布淀の趣
誠にも能き能き、中より不意に退る愚案をめぐらしけ

はに京勝よりも数代西軍の家とて、關東の大將殊に
家康とて敵對するとの謀あり、一ふれ是を悟るも
是者之も近玉の詔おもつ味の旗号あり、且上
未だ何れも軍勢の強弱を定めて金津に押さ
しめて大軍なりしを、謀もなき味方小山勢にて
不知事内の敵より我に向き、勝利得むといひ、美
思召され先、京勝より同公の義を返すに及は
ずは、姓名も家康とて、注進され、其ものあり、然
るに、京勝は、当地に、治定たり、其時國中へ
引入れ、中居戦あり、地居戦あり、又時、其に、い